



校内童話お話大会

学校代表決まる

北山健児

学校便り
第8号
発行(校長)
島袋 剛

■9月10日(火)に、校内童話お話大会がありました。各学年の代表者は左表の通りです。

低学年 (童話)	男子	1年 中村ゆうすけ
	男子	2年 與那嶺えいる
	男子	3年 中村ゆうき
	女子	1年 島袋ゆい
	女子	2年 大城ななみ
	女子	2年 仲宗根カレア
高学年 (お話)	男子	3年 大城なあさ
	男子	4年 仲里文汰
	男子	5年 幸地珠空
	男子	6年 山城守史
	女子	4年 玉城倅歩
	女子	5年 仲宗根心晴
		6年 仲宗根愛翔

■低学年の童話発表では、童話をしっかりと覚え、大きな声で時おりジェスチャーを交えながら発表ができていました。高学年のお話では、自分の体験を基に、心の動きやそこから得た考えを発表できていました。審査の結果、村大会(来月十日)への学校代表者が左記の通り決まりました。

高学年	低学年
女	女
男	男
玉城倅歩	大城なあさ
	中村ゆうき
	山城守史
	山城守史
村大会	会場
低:天底小	高:兼次小

児童会役員に挑戦 六年・山城守史

「新児童会役員に、立候補する人はいませんか?」五年生の三学期、担任の先生が新児童会役員募集を始めました。児童会役員と言え、多岐にわたる役割があり、仕事をしたり、毎朝あいさつ運動をしたりするの、絶対無理だ。ぼくには無理だ。絶

対無理由だ。ぼくは、最初の思いです。ぼくは人前で話すことが苦手で、また、あいさつ運動も苦手です。当時つとめていた生活委員でも、あいさつ運動の仕事はありましたが、ぼくは朝の準備が遅く、ほとんど参加していませんでした。以上のことから、私は児童会に立候補するなんて、無理だと考えていました。ただ、「無理だ」と思えば、かみむすびしてしまいました。児童会役員をつとめてくれる先輩は、堂々としていて、司会も上手です。また、あいさつ運動も欠かしません。「すなうふうになれたらいいのにな。」

ぼくは、心のむすぶずが強く、なつていくのを感じました。そんなとき、友だちが「一緒に立候補してみない?」と声をかけてきました。「自分が児童会役員になる?」無理だと自分で決めつけて、押さえていた「挑戦してみたい」という思いが、その友だちのさそいで、隠せなくなりました。ぼくは、すぐに先生に立候補することを告げました。ぼくの心は「不安」や「あきらめ」ではなく、「挑戦するんだ!」というやる気、むすぶずする気持ちは消えませんでした。

立候補が決まると、演説の準備に入ります。ぼくは、笑顔いっぱい、兼次小学校になるよう、みんなを優しい声かけをしていくことを、スピーチすることにしました。先生の力もあり、文を書き上げ、あとは話だけでした。でも、ぼくは話すのが苦手で、「かんだらどうしよう」「途中で忘れたらどうしよう」と不安になりました。でも、その不安以上に、ぼくは「やる気」がありました。何度か先生や家族に聞いてもらい、自分の思いをしっかりと伝える準備をがんばりました。話すことに自信のなかった自分、こんなにも一生懸命になれるんだと、自分で自分におどろきました。

そして迎えた演説の日。自分の番が少し近づいてきます。それにあわせてドキドキも高まってきました。続いて、山城守史さん、お願いします。」ついに自分の番がきました。演説台に立ち、全校児童を見渡すとドキドキはピークに達しました。でも、自分の思いを伝えるぞ!と話し始めました。緊張はもちろん見えていたが、しっかりと自分の思いを、手元の原稿を見ず、に伝えることができました。終わったときのホッとした気持ちは、今も忘れられません。演説に続き投票が終わり、いよいよ結果発表の時。山城守史さんと自分の名前が呼ばれた時は、信じられないくらい嬉しかったです。今、自分は兼次小学校の児童会役員として、日々頑張っています。司会でかんでしまったら、あいさつを覚えることに苦戦したりするところもありましたが、がんばっています。とくにあいさつ運動は、ぼくが遅れることなくがんばれています。

ぼくは、不安やあきらめを負わず、この挑戦をしてよかったです。本気で思っています。あつたとき自分の中から出てきた「やる気」は、ぼくらの成長の源です。これから頑張りましょう。